蔵王通信
硫黄

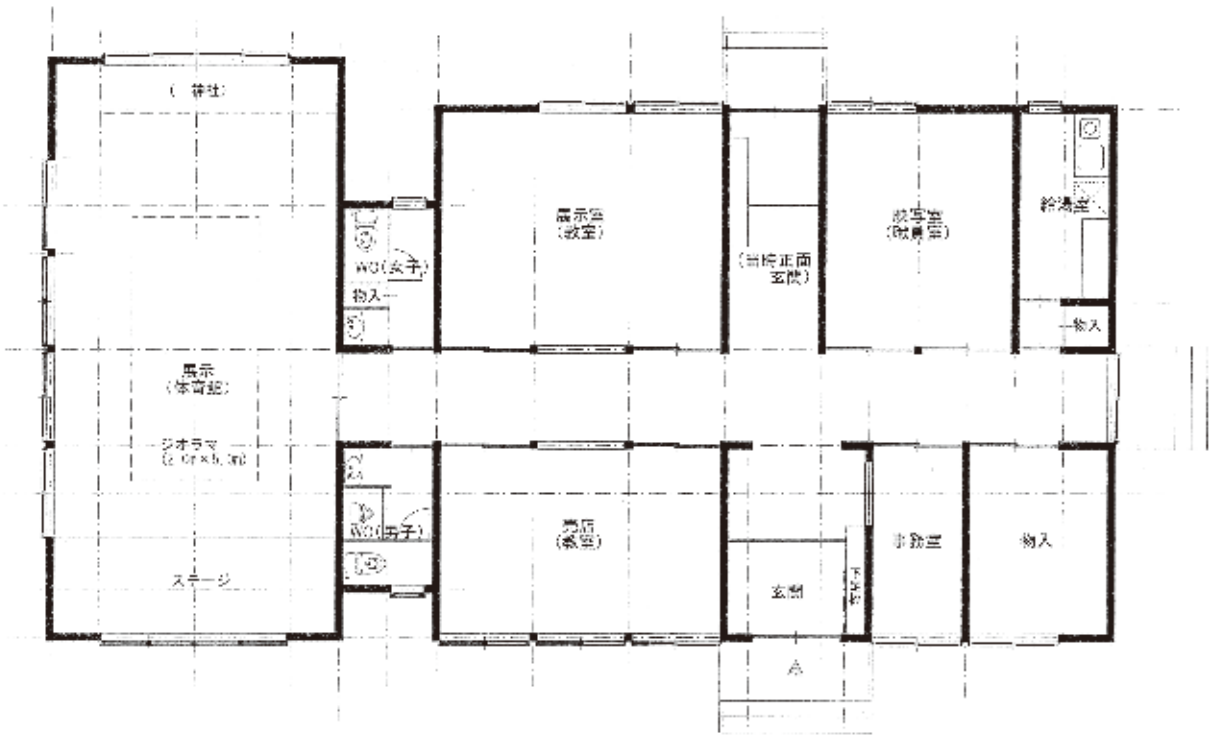
第３号

発　行
NPO法人 蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
山形県上山市蔵王字蔵王山 2843-1
発行責任者　川　口　兼　次
TEL.023-679-2211 FAX.679-2606
印 刷 所
有限会社　東洋企画印刷
山形県上山市四谷 2-1-46
TEL.023-673-1648 FAX.673-1646

感謝　カンパ活動の中間報告

6月から募集をはじめて2ヵ月。中間報告として7月31日現在の状況を集約させていただきました。時代を牽引した歴史がよみがえってきた記録となりました。謹んでご報告申しあげます。

「蔵王鉱山歴史資料館」



平面図１／１００
床面積：200.40 ㎡（60.73 坪）

小松正和建築設計工房

会員氏名

北海道
川口　二郎様・川口とし子様

秋田県
間山　昭様・間山　光樹様

新潟県
熊谷　忍様

埼玉県
高橋　輝幸様

千葉県
渡部　弘道様

東京都
石原　邦子様・鈴木　義雄様

尾花沢市
東海林恵史様

寒河江市
斎藤　宏様

山辺町
佐藤　京一様

山形市
秋山　峰広様・旭岡　勝子様
山川　俊子様・猪口　祐子様
加藤　良子様・阿部　大輔様
西野目　哲様・西野目洋子様
川口　周治様・川口たけ子様
木村　幹雄様・木村　久子様
川口　豊様・海老名六郎様
鈴木　敏和様・鈴木　ひさ様
丹野　啓様・川口　兼次様
川口　京子様

上山市
枝松　直樹様・横尾　敏子様
川口長次郎様・長谷部佳明様
三沢　照正様・齋藤　善吉様
齋藤トキ子様・田島　誠一様
芳賀　高信様・佐藤　竹志様
佐藤　芳子様・佐藤衣利子様
川口　尚也様・川口　良子様
佐藤　邦明様・鈴木　秀幸様
橋本　直樹様・今田太加司様
三澤　健二様・小松　正和様
篠原　政志様・原田　正男様
鈴木恵美子様・内海　清人様
内海　浩之様・鈴木　敏彦様
土田　貞男様・山川　秀男様
村山　利夫様・高橋　正之様

寄付者ご氏名

東京都
鈴木　義雄様・藤谷　浩様
及川　敏夫様・花嶋　輝成様
竹部　雅人様・岡野　稔様

上山市
加藤　満雄様・松田　敏子様
菱沼　秀夫様・佐藤　賢二様
堀川　栄助様・吉田あい子様

（七月三十一日現在で集計したものです。順不同についてはご了承ください。本年度の会員申込みは九月三十日が締切りとなっておりますので、よろしくお願い致します。）

【旧中川第二小学校。硫黄の煙（亜硫酸ガス）でハゲ山だった】

【卒業記念に植樹された木は大木となっている。】

知る人ぞ知る蔵王鉱山の「宝物」

私は蔵王鉱山の坑内夫でした。図面が無くとも、カンテラの灯りがあれば、どこの切羽（採掘現場）にも行ける自信がありました。

坑内火災によって蔵王鉱山は閉山されてしまいましたが、鉱石が硫黄ですから燃え易い、火がつき易いことはご理解できると思います。発破で鉱石を採掘したあと必ず「火廻り」と称して点検・確認が義務づけられておりました。

新入社員の頃、三回ほどその任に着いたことがあります。視界ゼロ、防毒マスクから見える青い火、耳を澄ますと、"キュ"と不気味な音、鉱石に発破の火がつき燃えていたのです。

職員の毛利さんと二人でへとへとになるまで水をかけて消す。疲れたのでいったん坑外へ出て休息。再び火災現場へ。火も消えガスも無く、防毒面をはずし、カンテラの灯を大きくして点検する。一瞬、私の足を止め"絶句"した。硫黄の"珊瑚礁"が林立していたのであります。想像してみて下さい。蝋燭に火をつけて逆さにして焼きつきた蝋の蓄積を―。

アノ程度の火災でこの神秘的なスバラシさ。閉山にまで追い込んだ大火災だけに先人たちの夢を消した「宝物」が、ここにあることにコダワリたい。

蔵王山は活火山である。昨年の四月「噴火警報」が発令され、エコーラインは通行止となり、蔵王観光は落ち込んでしまった。警報は解除されたが「レベル1」（活火山であることへの留意）が設定されている。

地震の予知はむずかしいが火山活動への観測は、かなり近代化されていると聞いている。

猿倉スキー場にも近代的な観測機が設置され、気象庁に連動されている。宮城県側の蔵王町では地下にダイナマイトを仕掛け爆破による震動や火山性微動などの調査を行った。

当会相談役の地質技術者熊谷さんと測量技師の大倉さんが整図した坑内図が手元にある。坑口から傾清岩の下をくぐり熊野岳へと続いている。言葉を変えれば「マグマ」に一番近いところまで坑道はのびているのである。電車はそこまで走っていた。ここに気象庁の最新機器を設置し「御嶽山」のような火山災害を予知し、「蔵王は万全」の風評効果を発信できないであろうか。

もし実現できれば、硫黄の珊瑚礁と合わせて蔵王鉱山はスバラシイ「宝物」となることを強調しておきたい。

（かわぐち）

おもな出来事　業務日誌から

◇**五月二十四日**　坊平から猿倉池への水路整備　何十年ぶりのことであり水路がヤブ化し苦労する

◇**五月二十六日**　機関紙第2号東洋企画印刷と打ち合わせ

◇**六月一日**　機関紙2号ゲラ刷そして校正

◇**六月三日**　機関紙2号発送

◇**六月七日**　㈱ヤマコー高橋専務と県観光物産協会へ歴史資料館建設への助成金のお願い

◇**六月十六日**　猿倉池隣地の土地所有者と境界の確認

◇**六月二十三日**　上山市議会　坊平・猿倉イベント広場視察

◇**七月二十一日**　山大医学部待合室で木友炭鉱山本金一郎さんと面会

◇**七月二十三日**　蔵王鉱業所庶務課勤務された小池友子さん葬儀へ参列（川口の従妹）

◇**七月二十七日**　山川庄助さん宅訪問

あの人この人 訪問記

変電所 山川 庄助さんの巻

大型機械大好き

電気ひと筋、閉山後は専業農家へ

腰痛がヒドク去年は、下から眺めての参拝。今年はアノ急階段を一気に登り製錬代表として玉串奉奠。地元永野地区会長のほか、中川地区会長会長も務められた。「庄助さん」と気軽に呼んでいたが実は歴史の生き証人であることを痛感させられた。

蔵王鉱山変電所 300K のトランス前で（昭和35年6月）

――採用は――

山川「昭和二十年四月。義務教育が終わるとすぐ入社試験を受けた。」

――昭和二十年といえばマダ戦時中ではないか――

山川「三人採用時に七人が応募、自慢ではないが私は合格」

――永野なので通勤でしたか――

山川「バスも無かったので歩きだった。夏はともかく冬の元山行きは辛かった。」

――硫黄製品は上山駅までどうして運んだのか――

山川「冬は馬そり、夏は、地元の自動車会社に委託して運んでいた。私の親父（山川源乃助さん）も関係していた。」

――索道ができたときの印象は――

山川「学校や地区会からの指示もあり、日の丸の旗を振って歓迎した。昭和13年頃だったと思う。」

悲劇は温厚な庄助さんを襲った

昭和56年一月、山形県道路公社（蔵王ライン）に勤務されていた次女を病で亡くし、その5月長男が永野道路で交通事故死。そのショックで実父山川源乃助さんが死亡。しかし彼はひるまず親父さんが残してくれた土地を生かして奥さんと二人で専業農家へ。

――大型の機械を多くもっておられるという評判だが――

山川「トラクター。コンバイン。田植機。バックホーン。高所作業車。フォークリフト。精米機。もみすり機。乾燥機等々…」

――驚きだ。そんなに必要なのか――

山川「好きなんだ。機械を眺めていると不思議に気が休む。」

――山神社がズリ山の入口にあったとか――

山川「大曲りを登って直ぐ右手のところにあった。竹割さんが赴任されてから現在のところに移された」

三年前に奥さんに先立たれ三回忌の法要が終わったばかり。「蔵王鉱山の話をしても分かってくれる人が少なくなってきた…。」そのひと言がありし日の奥様の笑顔と交差し、感傷的な対談となってしまった。

（昭和6年生まれの84歳）

役員紹介

専務理事 川口 豊さん

春闘のスト決行中の4月12日が誕生日。翌年の38年に蔵王鉱山が閉山。猿倉の社宅から中川小へ。夏は自転車、冬はバスでの通学。

大学だけは勘弁してくれ親父（川口兼次）に泣きつかれて山商卒。

骨折2回、捻挫13回。全日本の滑降競技では転倒し意識不明の重傷。これらを乗り越えて平成4年のスキー国体では優勝。

索道修理班の三澤健二氏の長女と結婚。長男は千葉県に就職。奥さんと次男・長女の4人暮らし。

山形県高等学校PTA連合会会長の要職に就任。娘さんの卒業に伴い辞任。

日東商事株式会社の代表取締役社長でもある。

自宅を寄贈し 亜炭歴史資料館の設置

―・訴えかける木友炭鉱・―

亜炭山としてはその規模と出炭量は日本一といわれた舟形町の木友炭鉱。昭和46年に閉山。木友炭会の会が発足。蔵王鉱山の山神社祭にもご出席いただいた会長の山本金一郎さんが大きく動き出した。

ふるさとにUターン

父は、閉山後2年間残務整理で鉱山にのこりました。

理事 丹野 啓

（その1）

蔵王鉱山の製錬に勤務していた「丹野正光」の長男、啓です。山形市にある自宅に戻り、早くも七年になります。

春から秋にかけては、山菜採りでもして、冬は、定年まで暮らした埼玉でのんびり…と考えておりました。

山神社祭で川口会長から「冬期間スキー場のリフト係をやれ！若いのに遊んでるのはトンデモも無い！」と、強くいわれ五年になります。

以来、NPO法人蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会の発展に向けて行動を共にしておりますが、初回の原田正男氏に続き原稿を要請されました。作文は苦手なので断ったのですが「君の親父さんは教育部長で達筆で文豪だった」と、押え込まれ筆を執った次第です。

昭和三一年四月、中川第二小学校へ入学。戦後のベビーブームで開校後はじめて三五名の新入生でスタート。担任の先生は蔦谷栄三先生の奥様でした。美人で厳しい先生でした。全員無事に卒業し、中川中学校へと進学するのですがその年に坑内火災が発生し、その火を消すことができず閉山となり、中学一年二学期で鉱山関係の生徒は離れ離れになってしまいました。まだ、子供の私たちにとっては、悲しい出来事でした。

父は、川口委員長の後を継ぎ、蔵王鉱山労働組合最後の委員長となり、閉山後の残務整理、観光事業移行への準備等で二年間鉱山に残り、家族全員が山形市に移住しました。中学は山形六中でした。

仙人沢での水遊び、川を止めての若魚取り。春の山菜採り、横川へのタケノコ。父と土田のおじさん（貞男氏の父）に連れられての遠征でもあった。

山神社祭では友達と太鼓をたたき、スキーは、先輩の伊藤幸吉さんが全日本の資格を取り、我流で滑っていた私たちに正しく指導され、いま猿倉で役立っています。

同級生の長谷部佳明さんの父親（長谷部靜雄さん）が撮影してくれたスキー大会や運動会、杉皮葺の長屋住まいであったが、皆家族的で温みのある環境であったと思います。

やがて建設されるであろう「歴史資料館」鉱山ならではの暮らしぶりや、暖かさが表現できるよう頑張っていきたいと思います。

（次回は埼玉での暮らしの予定）

（次回へつづく）

昭和 37 年 3 月卒業。写真はその前年 11 月、初雪の熊野岳をバックに撮影したもの。

蔵王鉱山は誰のもの

その三 超繁栄時代

私は、昭和24年、坑内労働者として採用された。若年十八才ながら月給六千円が目につき職安に飛び込んだ。知人の調査によれば当時の大卒の国家公務員の初任給は月額四、二二三円という金額だった。増産体制にあり、残業に次ぐ残業でその気があれば、なんぼでも稼げる時代であった。

社長は機関紙2号で紹介した藤山愛一郎氏。日本を代表する実業家。所長は竹割政男氏。竹割さんは拓大卒で学生相撲のチャンピオンでもあった。

昭和二十四年から二十八年にかけて蔵王鉱山の「全盛」時代であったのかも知れない。

製錬場から元山へ、索道が増設（第三索道）され、一二〇名収容の単身者用の宿泊施設刈田寮が元山に建設された。一ヶ月分の給料を懐に入れ下山、変電所の隣にあった「勤労部」や「分析と組合事務所」などは移設され、「バス停」に変わっていたのに驚いた。

それだけではない、仙人沢に橋がかかり小学校（中川第2小学校）や蔵王寮、職員アパート、管理職住宅、等々矢継ぎ早に猿倉に建設され、野球場も造成された。

組合員は三〇〇名に増えた。給料は定期昇格のみの増額。不満は爆発し全鉱（全日本金属鉱山労働組合連合会）に加盟し大斗争が展開された。月額組合員一人当り三千三百円の増額。いわれてき百万円斗争である。満額をカクトクし組合側の大勝利であったことも歴史のひとこまかも知れない。

（次回へつづく）

蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
理事長　川口兼次

蔵王通信

東京の鈴木義雄さん　この四月肘折温泉で永松の会の総会が開催された。いで湯館へ行くんですが？私もいくんで案内します。総会で自己紹介があり、東京永松会の役員であったことも知り、名刺を交換した。恩師の先生が寒河江工業の斉藤宏さんと大の親友とか、斉藤さんもビックリ。

長谷部孝雄さん　蔵王労組三代目委員長。㈱ヤマコー専務取締役の高橋さんとお会いすることができた。「長谷部孝雄さんを知っているか」「知っているどころか天下の大物」話ははずんで、長谷部さんの息子さんとの連絡も取れ、写真もいただいた。

イベント広場　蔵王鉱山製錬場跡地である。閉山により社宅、索道、溶鉱炉などが解体され閉山時は瓦礫のヤマ。国体（馬術）の開催を機に整備が進みサッカー場やソフトボール場などが設置され、オリンピックで金メダルの女子ソフトボール上野由岐子投手も二日間ここで練習した。

猛暑　下界に住む人には申し譯ないが猿倉にとっては大歓迎。気象庁によれば九月中旬頃までつづくとか。温度差5度を活かした商売に熱中〝商〟。